

まちを愛し、まちを元気に

ナバリスト 2



赤目滝水族館
Instagram

朝田 光祐 さん | 赤目滝水族館 新館長

あさだ・こうすけ ● 東大阪市出身。中学生のころ、ニュージーランドに留学。高校途中で帰国し、芸能活動始める。コロナ禍で仕事が減る中、幼いころから好きだった生物の専門学校へ。日本サンショウウオセンター飼育主任を経て、22歳で赤目滝水族館館長に就任



泥からよきと顔を出すタウナギなどユニークな展示も。「私に声をかけていただいたら、解説しますよ」と朝田さん



展示する生き物を採取



赤目の自然も満喫

皆さんからの "期待" を、世界中からの「来たい」に！

大阪の専門学校で水生生物について学んでいたころ、「日本サンショウウオセンター」の飼育員として誘われたことも。何度か断っていましたが、昨年1月、初めて赤目渓谷へ。壮大な滝、透明感のある水、奥まで続く遊歩道……。一気に魅了されました。でも、冬で人はいないし、渓谷入口に古びた施設……。ここは、伸びしろがすごい！チャレンジしたい！そう直感し、毎週月曜、学校終わりに飼育ボランティアとして赤目に通うようになりました。

今は、人に恵まれ、水族館の仕事に没頭中です。オープンまでの1カ月ほどで、生き物の採取や改装をやり遂げられたのはスタッフみんなのおかげ。水族館プロデューサーの中村元さんに教わることも多いです。また、館内で放映中の渓谷のドローン映像や水族館グッズのデザインは、それぞれ知人に快く提供いただきました。そして、渓谷保勝会で最年少の私を、館長という日の当たるポジションにつけてくれたのもすごく感謝しています。

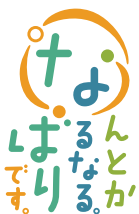
中学生のころ、洋楽がきっかけで海外にこれが、留学。親元を離れ、「頼れるのは自分だけ」という環境で何とかやり抜けたことが、自信につながっています。帰国して始めた芸能活動では、メディアと付き合う術も学びました。今につながる経験を総動員させ、さらに自分を高めながら、皆さんの期待に応えていきたい。そして、世界中に赤目の渓谷や生き物のすばらしさを伝えていきたいですね。

編集後記

この地にもっと光が射すように……。若い人たちの思いが追い風となり、新しい道を歩み始めた赤目の観光。みんなで作るエコツアーも本格始動していきます。世界中がワクワクする名張に向けて、さあ、いよいよこれからです！（たか）

まちの保健室の取材で、蔵持町のサロンに伺いました。「引越してきたが、声を掛けてもらい参加し始めました」という人も。互いに声を掛け合い、サロンに集まるとみんなで楽しむ。皆さんの笑い声にこちらも自然と笑顔になりました（くま）

広報なばりがカラーになり、市民の皆さんから何度かお電話をいただきました。「カラー化の嬉しさを伝えたくて、いてもたってもいられず電話しました！」という嬉しい言葉も。これからは色も効果的に使って、伝える広報を目指します（はる）



名張のひと・活動

令和6年5月10日発行
広報なばり

● 人口 74,780人 (前月比- 267人) ● 世帯数 34,915世帯 (前月比+ 27世帯) ※ 4/1 現在

発行/名張市 なばりの未来創造部 広報シティプロモーション推進室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1

☎ 0595-63-7402 FAX 0595-63-2560 ✉ pr@city.nabari.lg.jp



市HP